

# 公共施設マネジメントの推進

～次世代に負担を先送りしないために～

2021年6月30日

豊岡市 公共施設マネジメント推進室



## 1. 公共施設マネジメント推進の背景

- ・全国の自治体で公共施設の老朽化が大きな問題  
→2012年12月 中央自動車道 笹子トンネル天井板落下事故
- ・本市でも公共施設（庁舎、学校、コミュニティセンター、図書館、ホールなどの建築物）の多くが既に老朽化し、今後、一斉に改修や建替えの時期が到来
- ・2005年の市町合併に伴い、旧市町時代に整備された用途や目的が重複している施設を、そのまま引き継いだ

公共施設マネジメントとは

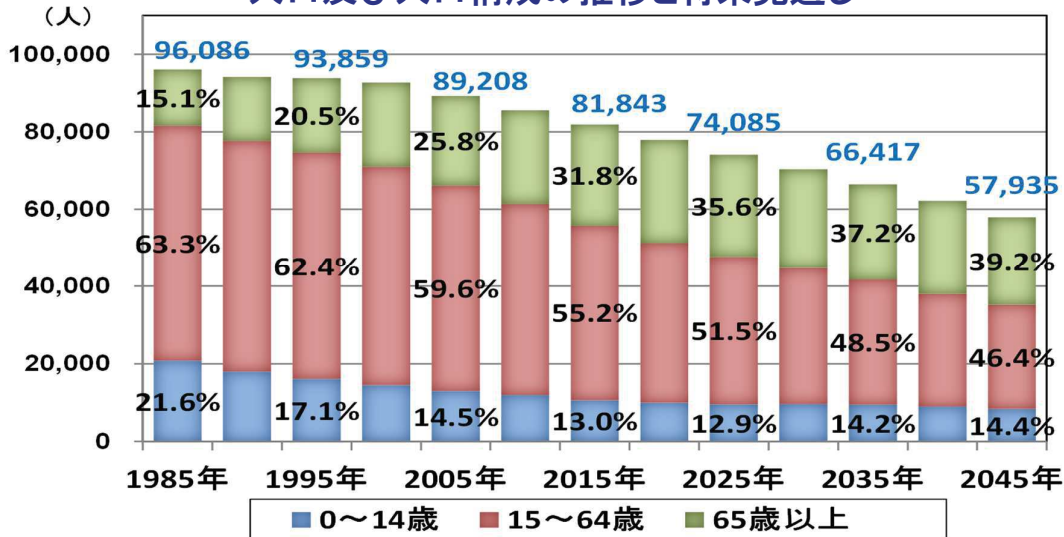
公共施設の建替えなどに伴う**多額の財政負担を軽減**させ、**施設サービスの水準を適切に維持**していくため、**計画的維持修繕による長寿命化**や**施設保有量の最適化（総量縮減）**に取り組むこと

## 2. 豊岡市の公共施設の現状と課題

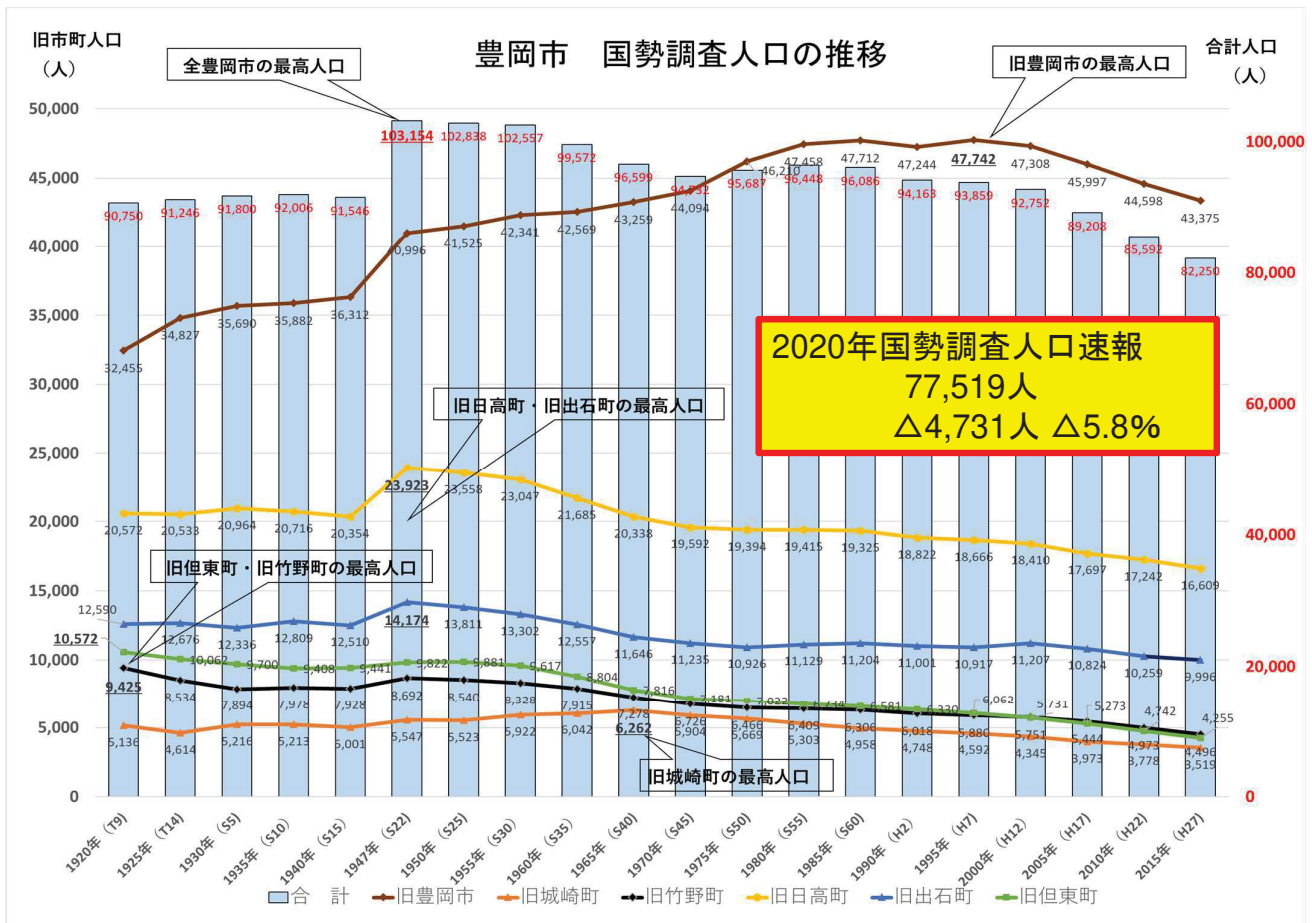
### (1) 人口減少による財政への影響

- ①働き盛り世代の減少による税収の減少
- ②市町合併で優遇されてきた普通交付税が縮減  
⇒建替えなどに対する財源が一層不足

人口及び人口構成の推移と将来見通し

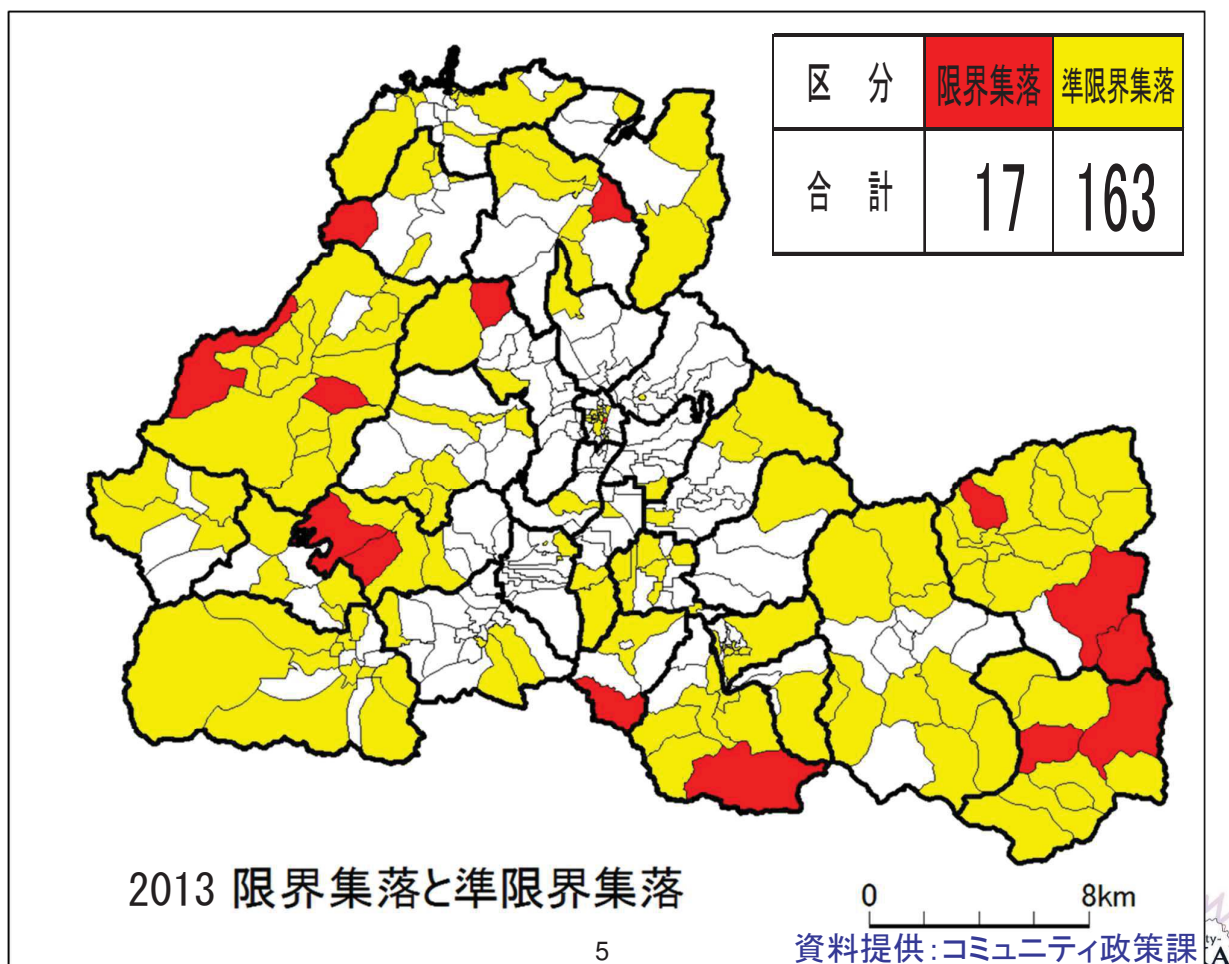
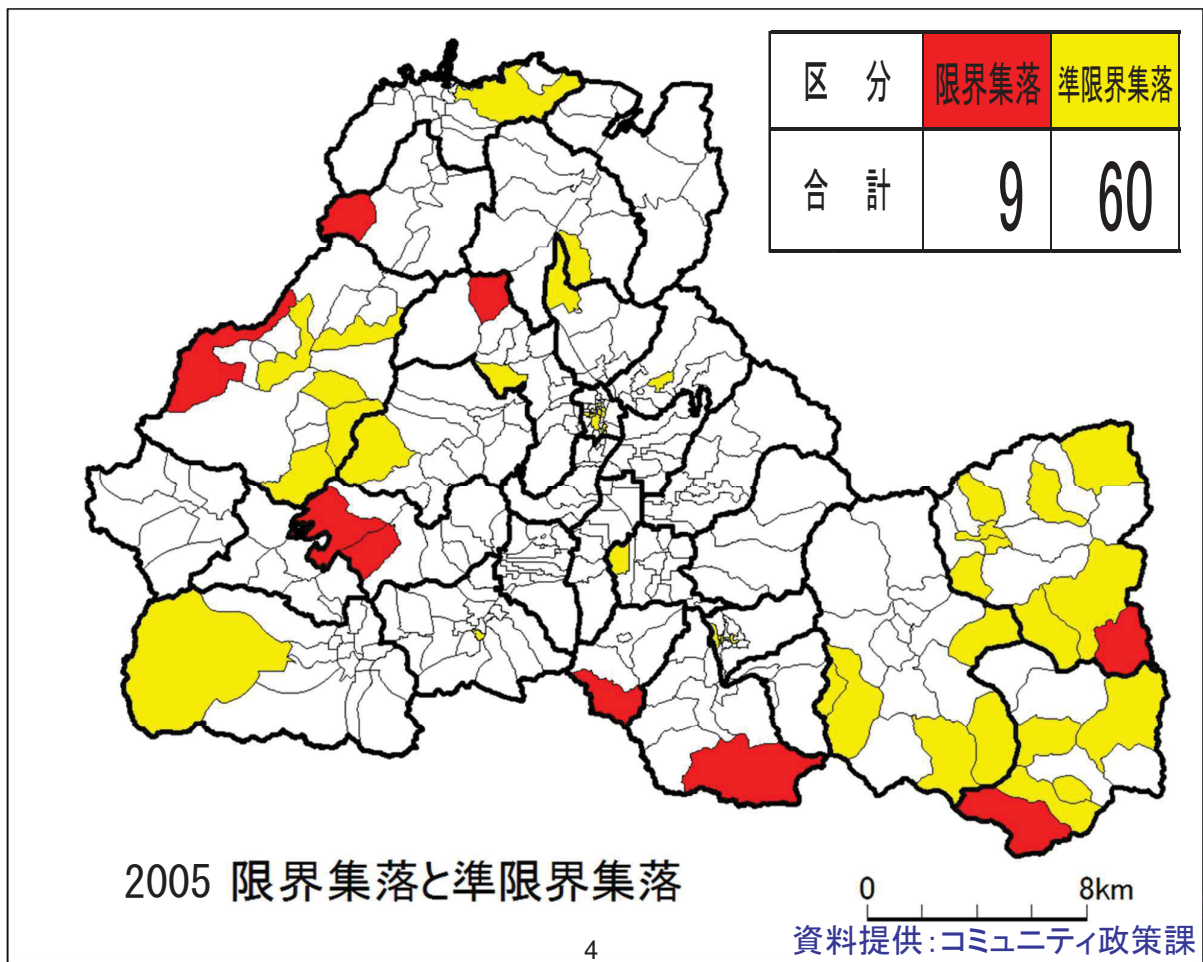


2

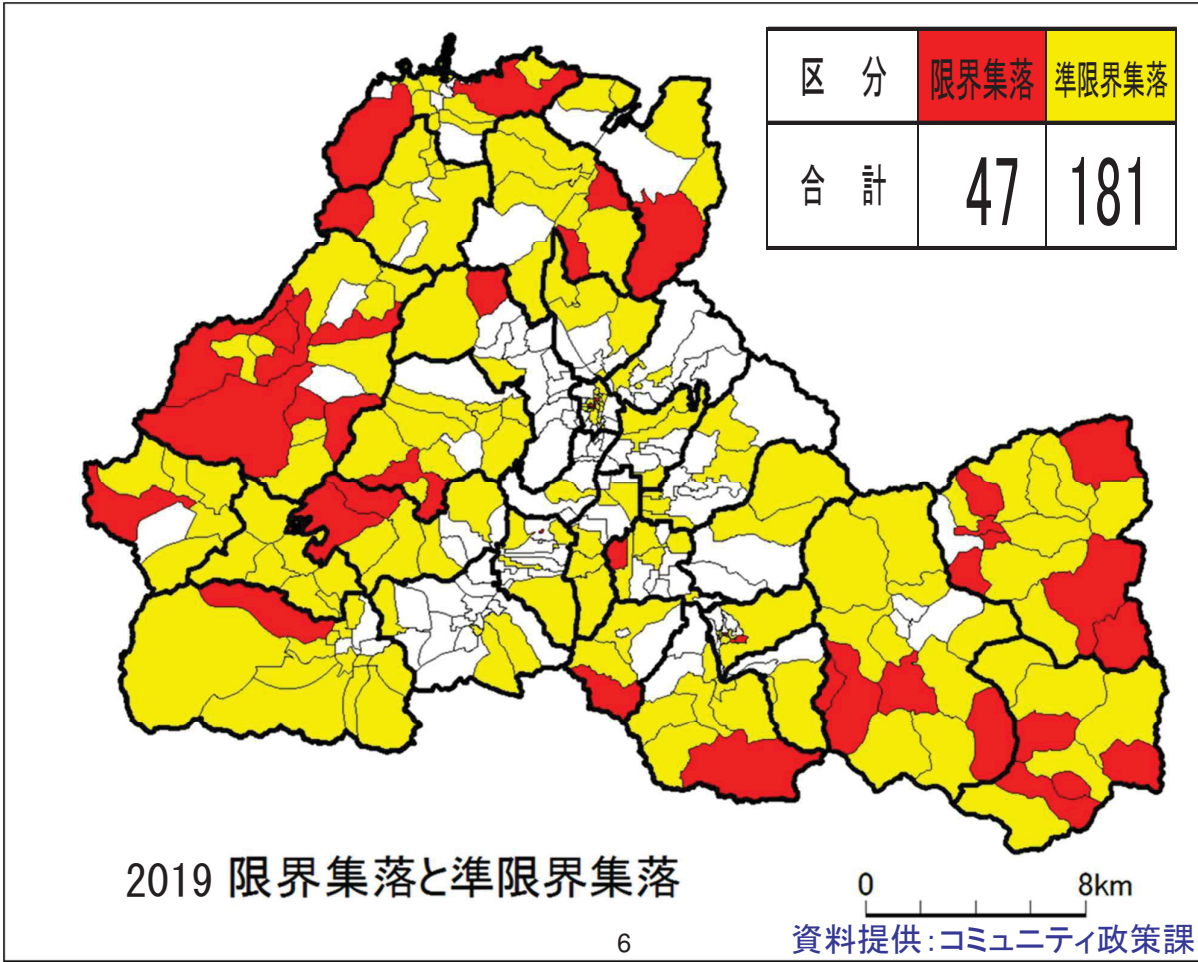


3





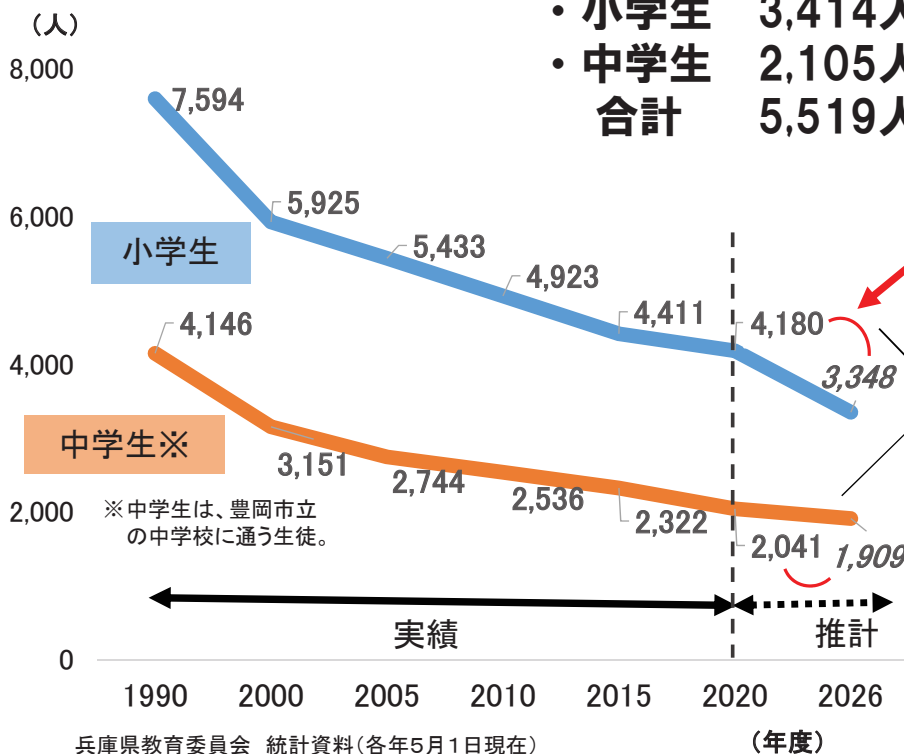




### 児童・生徒数の推移

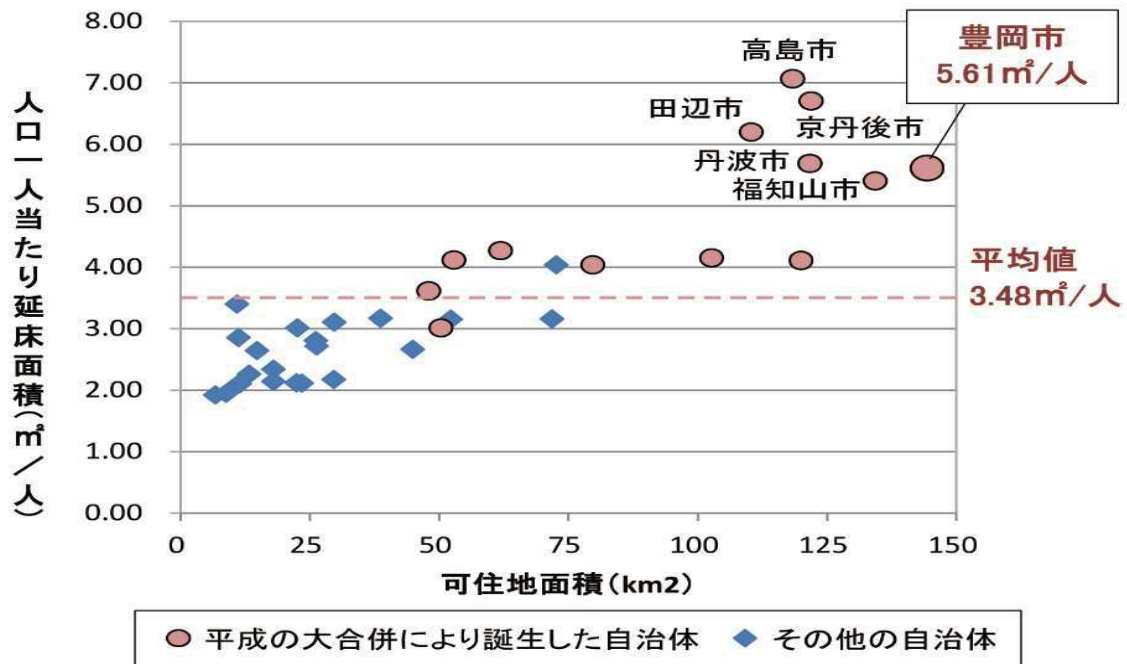
1990年⇒2020年

- 小学生 3,414人 減
  - 中学生 2,105人 減
  - 合計 5,519人 減
- 約1/2



## (2) 保有量が多く老朽化する施設

- ・574施設、総延床面積48.7万㎡（市民一人当たり5.6㎡）を保有。  
その規模は類似都市平均の1.6倍（2014.4.1現在）

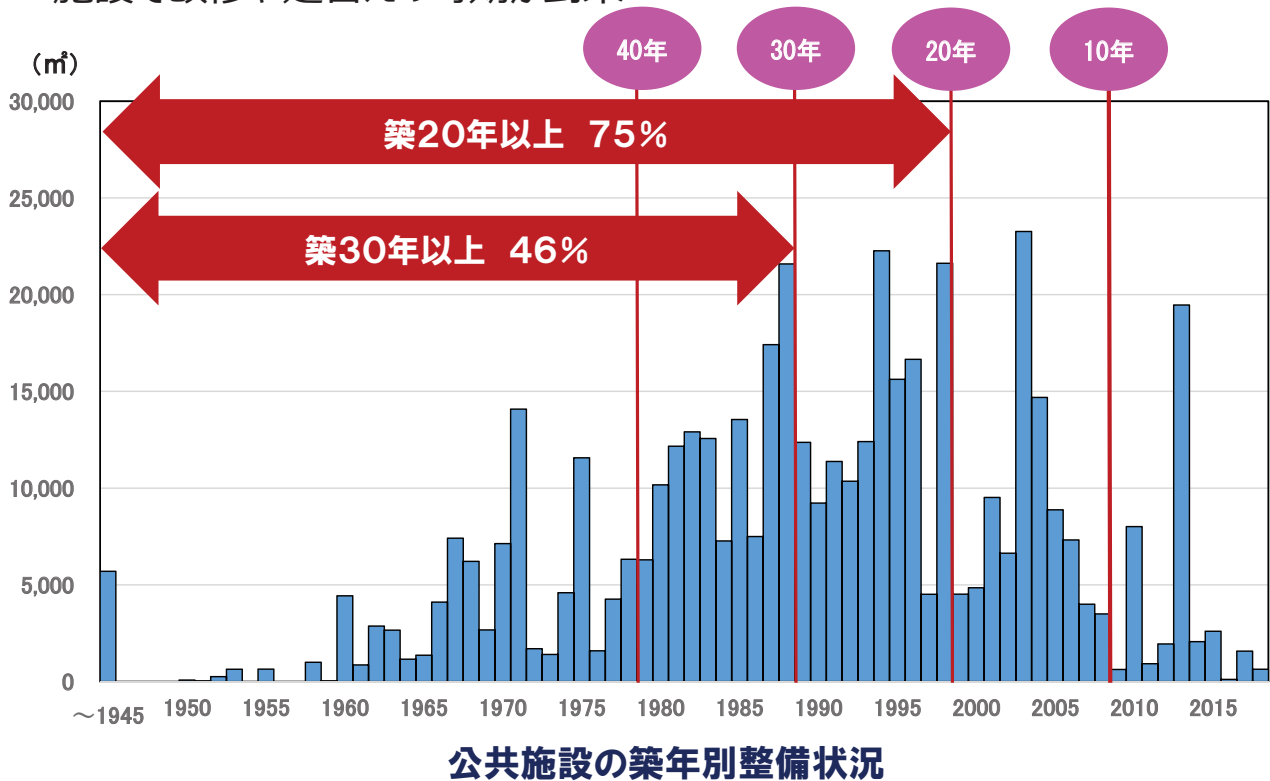


人口一人当たり延床面積の類似団体との比較

8



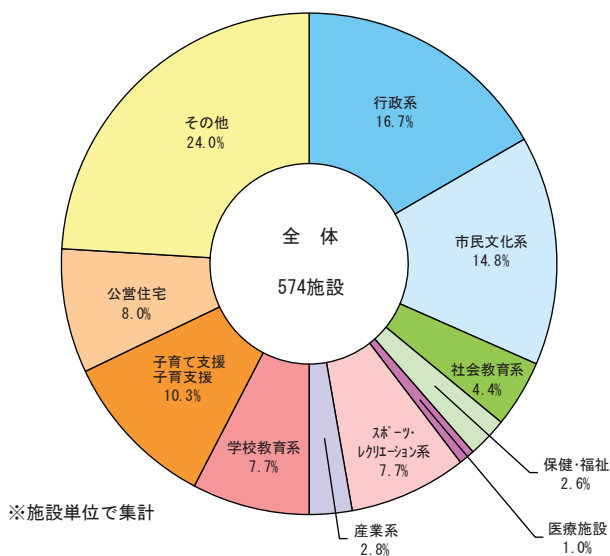
- ・10年後には築30年を経過する施設が75%に達するなど、今後、多くの施設で改修や建替えの時期が到来



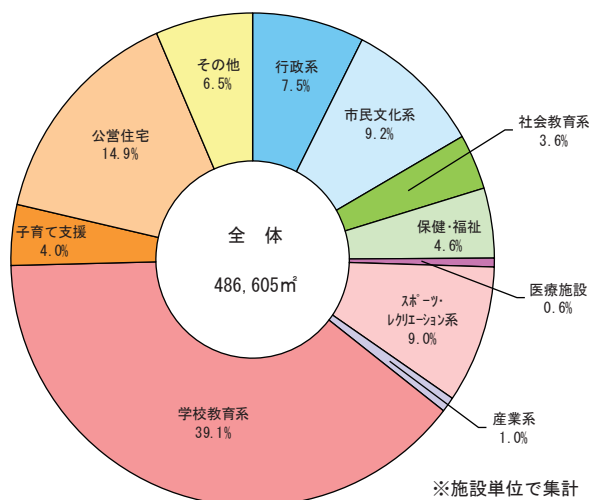
9



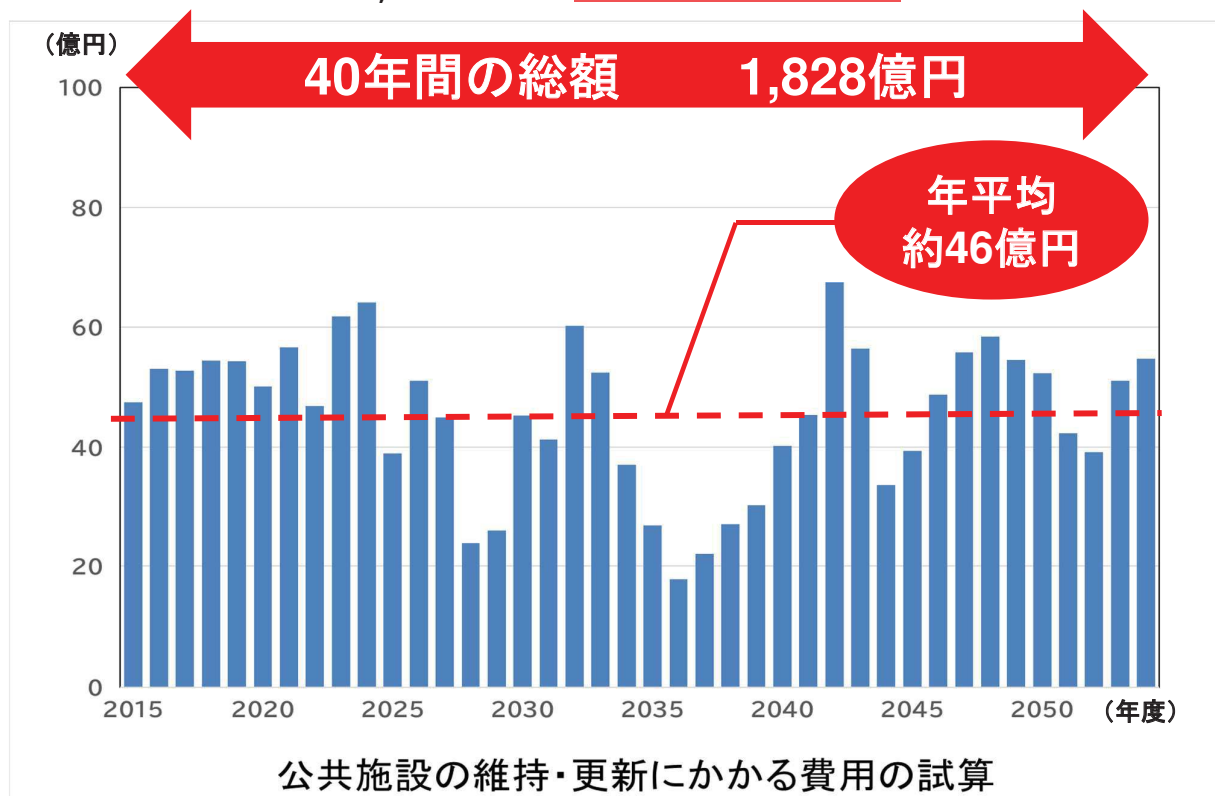
### 施設分類別の施設数構成比



### 施設分類別の延床面積構成比



・現在の施設をそのまま維持・更新する費用を試算すると、今後40年間で総額1,828億円、年平均で約46億円が必要

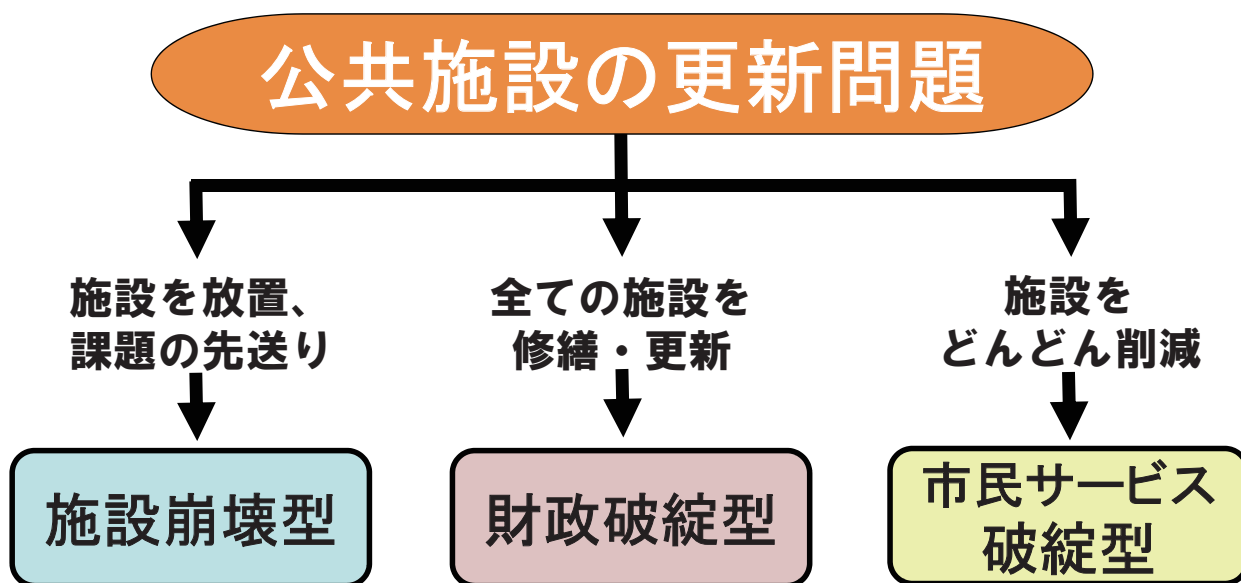


### 3. 施設保有量の数値目標

- ・施設の更新に必要な約**46億円/年**に対して、充当できる経費は**21.2億円/年**（長期財政見通し（2016年5月公表）から試算）
- ・不足額解消のためには、長寿命化（施設を有効活用して長く使用）とあわせて、40年間で公共施設の延床面積を**34%削減**することが必要。

今後の方針	条件	1年当たりの更新費用	40年間の更新費用の総額
長寿命化+延床面積削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建替え80年</li> <li>・大規模改修40年</li> <li>・延床面積<b>34%削減</b></li> </ul>	21.2億円	849億円

### 4. 将来の公共施設のあり方



- 1 必要な機能(市民サービス)を確保し市民の暮らしを守る。
- 2 次世代に負担を先送りしない。

# 5. 公共施設の再編に係る手法（例）

(1) 機能や施設は必要だが、保有する施設の規模や施設数を削減する必要のある施設

<p>① 統廃合</p>	<p>・設置目的が同じである同一機能をもつ複数施設を、利用状況や近接性等を考慮して統合</p>	
<p>② 多機能化 (複合化)</p>	<p>・独立施設である必要のない施設のもつ機能を地域の拠点施設に移転し、設置目的が異なる施設を複合的に利用</p>	
<p>③ 類似機能の 共用化</p>	<p>・設置目的は異なるが、会議室等の類似する機能をもつ複数施設を、利用状況や近接性等を考慮して統合</p>	

<p>④ 広域化</p>	<p>・国、県、近隣市町との広域連携により、地域外の住民も利用可能な施設を共同保有・相互利用</p>	
--------------	--	--

(2) 機能は必要だが、施設を保有する必要のない施設

<p>① (民間移管) ソフト化</p>	<p>・施設を民間事業者に譲渡する、または施設を廃止し、市民には民間施設を利用してもらう。 ・自治会等に施設を譲渡する。</p>	
<p>② (代替サービス) ソフト化</p>	<p>・情報通信技術等を用いることにより施設を用いないサービス提供方法へ変更する。</p>	



## 6. 本市の取組み

### (1) 多機能化（複合化） (1)-②実例

・各庁舎では、旧町時代の空きスペース（議場など）を地区コミュニティセンターや 図書館分館、子育てセンター等として有効利用

区 分	複合施設
城崎庁舎	地区コミュニティセンター、子育てセンター、図書館分館
竹野庁舎	地区コミュニティセンター、図書館分館
日高庁舎	子育てセンター、図書館分館、(商工会)
出石庁舎	地区コミュニティセンター、子育てセンター、図書館分館
但東庁舎	地区コミュニティセンター、子育てセンター、図書館分館、消防本部駐在所、歯科診療所、(商工会、観光協会)

16

Local & Global City  
TOYOOKA

### (2) ソフト化（民間移管） (2)-①実例

#### ア 地区集会施設の地元譲渡

従前：法定耐用年数が経過した施設から順次地元へ譲渡。

今後：基本10年を経過し、補助金所管省庁等の承認を得た施設、起債償還が済んだ施設は、早期に地区に譲渡。

#### イ 2019年7月時点の状況

**32施設**

#### ウ 2019年度末

17施設を譲渡

(豊岡1、竹野1、日高8、出石6、但東1)

#### 2020年度末

8施設を譲渡

(城崎1、日高5、但東2)

#### 2021年度末

1施設を譲渡予定

(竹野1)

#### エ 2021年度末見込み

**6施設**

**△26施設**

総量削減の成果  $5,014.70\text{m}^2 \div 48.7\text{万m}^2 = 1.0\%$

17

Local & Global City  
TOYOOKA

## 【参考】

### ・ 出石文化会館（除却） (1)-①実例

→市が除却→売却益・雇用・税收

総量削減の成果  $2,423.12\text{m}^2 \div 48.7\text{万m}^2 = 0.5\%$

### ・ 出石温泉館乙女の湯（譲渡） (2)-①実例

→建物譲渡、土地貸付→雇用・税收

総量削減の成果  $532.70\text{m}^2 \div 48.7\text{万m}^2 = 0.1\%$

### ・ 旧森本中学校（売却） (1)-①実例

→土地・建物売却→売却益・雇用・税收

総量削減の成果  $2,954.00\text{m}^2 \div 48.7\text{万m}^2 = 0.6\%$

## (3) 公共施設整備基金の設置

ア 2017年12月 公共施設の整備、除却等に要する資金を確保するため、基金を設置。

イ 財政調整基金から70億円を積替えて、用途目的を明確にした。

ウ 将来の財政負担に備え、公共施設整備基金、市債管理基金を優先的に確保する。

エ 2020年度末、同基金の残高76.4億円。

## (4) 個別施設計画の策定

・個別施設の具体的な対応方針を定めるもの

策定済みのもの

- ア 公園施設長寿命化計画・・・2014年3月策定
- イ 橋梁長寿命化修繕計画・・・2020年3月策定
- ウ 公営住宅等長寿命化計画・・・2019年3月策定
- エ コミュニティセンター・・・2019年3月策定
- オ 体育施設等・・・2019年12月策定
- カ 学校施設・・・2020年1月策定                      など

未策定施設 → 2021年3月に策定

- ア 出石庁舎を除く各庁舎
- イ 健康福祉センター、診療所等の健康福祉関連施設
- ウ 温泉・博物館等の観光・文化関連施設
- エ 幼稚園・こども園等の子育て関連施設
- オ 公衆便所
- カ 消防団車庫・倉庫                                      など

2021年度

公共施設等  
総合管理計画

を改訂



## 7. 配置・機能を維持する施設の方向性

### (1) 庁舎・消防施設

・豊岡市役所、豊岡市役所立野庁舎、振興局庁舎、常備消防である消防施設（各地域の消防署・分署など）は、現在の配置・機能を維持  
ただし、日高分署、城崎分署竹野出張所については、庁舎との複合化などを検討

### (2) コミュニティセンター

・地域コミュニティ組織による住民自治の活動拠点としていくため、現在の配置・機能を維持

### (3) 図書館

・市民の生涯学習の場を提供していくため、現在の配置・機能を維持  
・良好な図書館サービスを提供するため、業務の一部又は全部委託などを含めた様々な方法を検討



## (4) 医療施設

- ・無医地区における診療所は、現在の配置・機能を維持

## (5) 中学校、小学校

- ・「豊岡市学校施設整備計画」に基づき、**将来の児童生徒数を踏まえた適切な手法**により、効率的・効果的な老朽化対策を実施
  - ・長寿命化改修などを実施する際は、近隣の他の施設との複合化を検討
  - ・より良い教育環境を確保していくため、保護者や地域住民との協議を推進
- 校区要望を受け、2021年4月 奈佐小を五荘小に統合。  
港東小、港西小を統合し港小を設置。  
2022年4月 中竹野小、竹野南小を竹野小に統合予定。

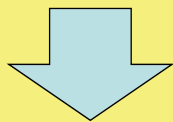
**→学校跡地は、市の財政負担も考慮し  
利活用方策を検討します。**

## 8. 推進上の留意事項

- (1) 継続施設については、より**効率的・効果的な管理運営**を原則とする。
- (2) 新設は、**止むを得ないもの、真に必要なもの**のみとし、新設・再編に際し、活用上の**適正配置・地域性に配慮**する。
- (3) 「豊岡市地方創生総合戦略(平成27年10月策定)」に定めた人口減少対策や、住民の参画による地域の活性化に資する施設にあっては、**機能の強化や充実を図る**よう検討する。

## 9. 現在の取組み

### 「地域デザイン懇談会」を開催 (2020年～2021年)

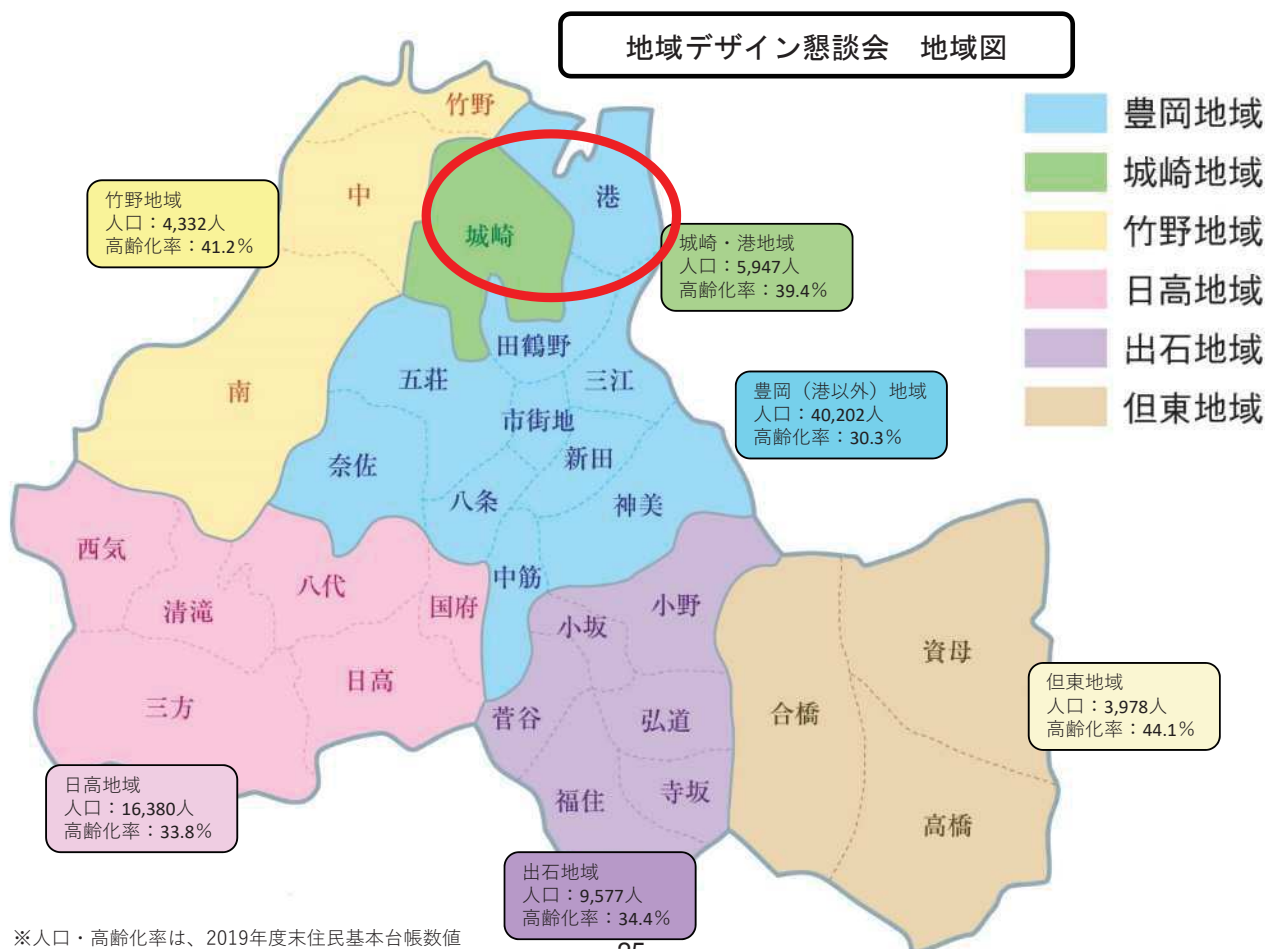


旧市町単位を基本に設置し、地域に必要な施設・機能を市民の方々と一緒に協議・検討する。

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により開催スケジュールを延期・手法を変更



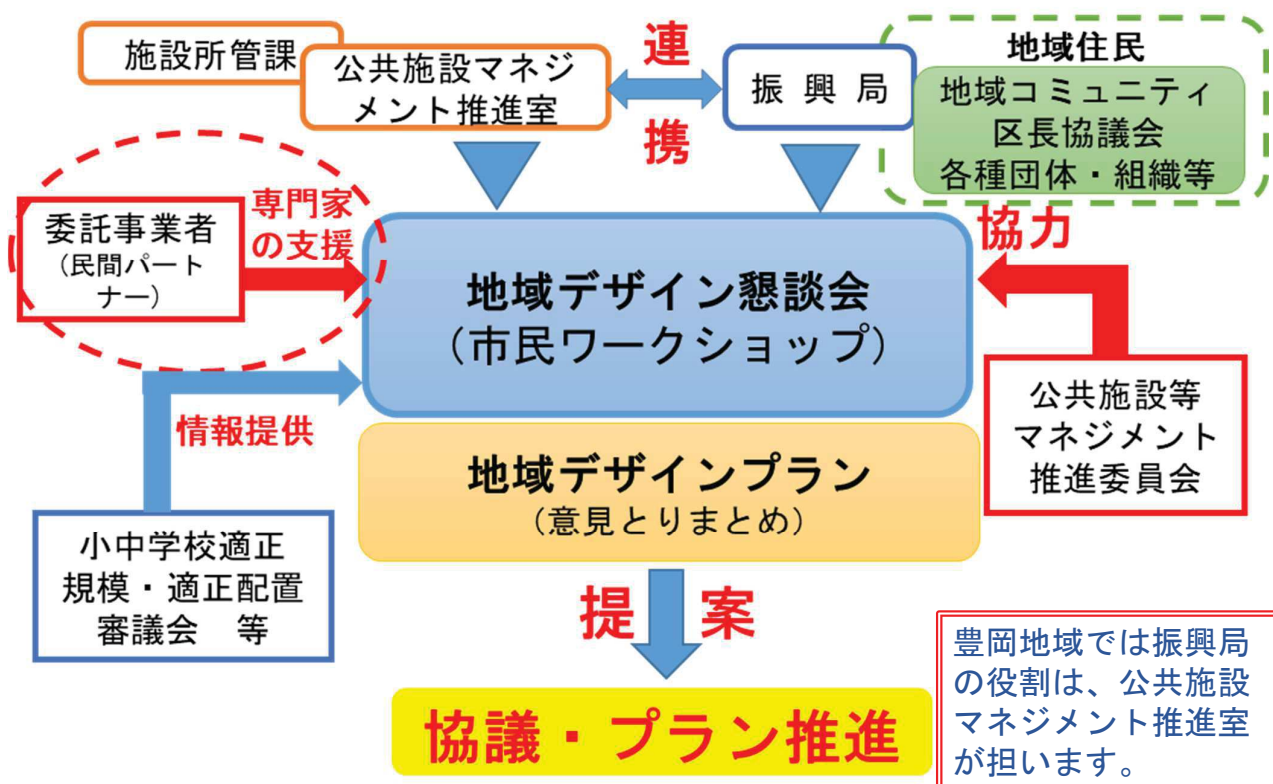
24



25

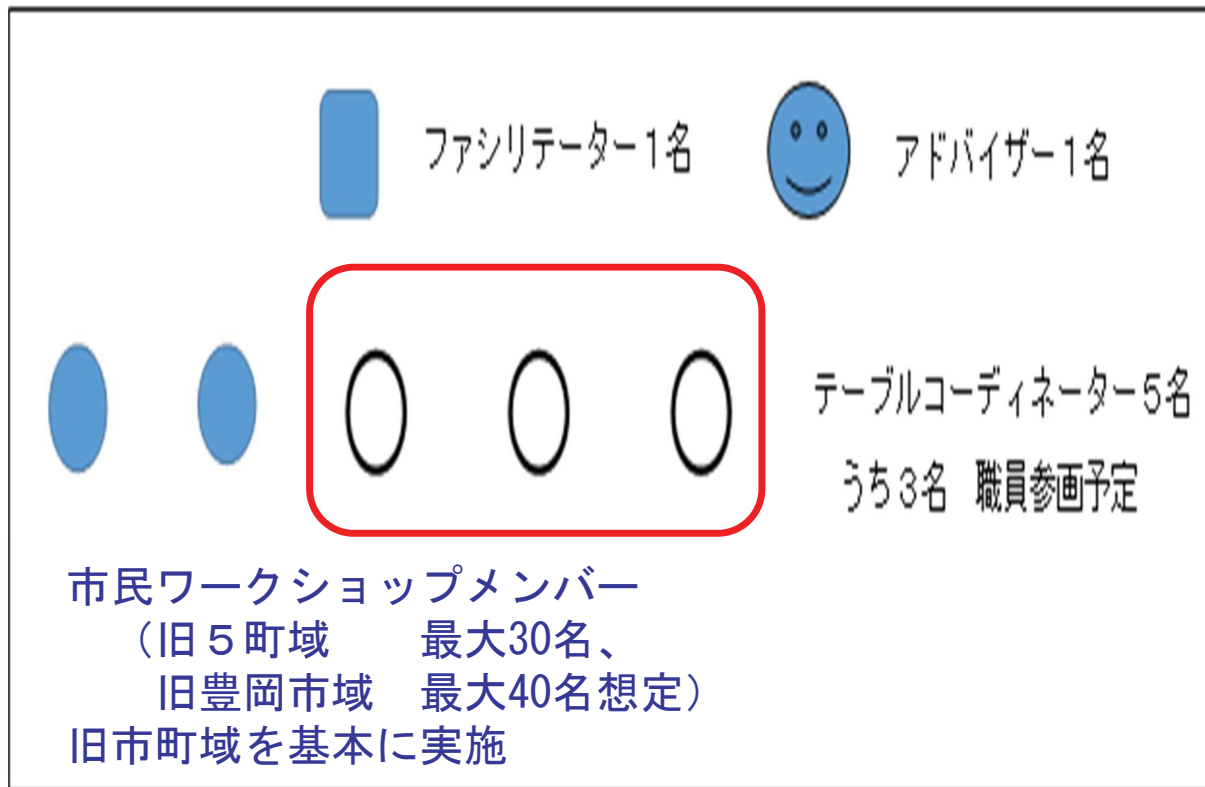


# 地域デザイン懇談会 イメージ図



パートナー: 豊岡地域デザイン検討支援(八州・キタイ設計・人まち住まい研究所)共同事業体

地域	担当
豊岡地域	(株)八州まちづくり技術部
竹野地域	
但東地域	
城崎・港地域	(同)人・まち・住まい研究所
出石地域	
日高地域	キタイ設計(株)



## (1) 開催状況

本年3月から、各地域での懇談会を開催中。  
各地域で年内にそれぞれ5回程度の懇談会を開催予定。

## (2) 開催結果等の状況

各地域での  
懇談会の開催  
状況は、市  
ホームページ  
で公開してい  
ます。

公共施設について考える「地域デザイン懇談会」

ページ番号1016888      更新日 令和3年4月23日

地域デザイン懇談会で市民の皆さんと一緒に将来の公共施設のあり方を考えます

豊岡市では、保有する公共施設の老朽化が進み、更新時期を迎える中で、厳しい財政状況下での更新・修繕費用の確保が懸念されています。  
そのため、今後予想される公共施設の建替えなどに伴う多額の財政負担を抑え、施設サービスの水準を適切に維持していくため、計画的維持修繕による長寿命化や施設保有量の最適化（総量縮減）に取り組んでいます。  
このような中、おおむね合併前の旧市町域を基本に「地域デザイン懇談会」を開催し、市民参加型ワークショップなどを通して、地域のまちづくりや賑わいづくりを見据えながら、地域に必要な施設・公共サービス提供機能について、市民の方々と一緒に考えていくこととしています。  
参加者の皆さんから、さまざまな意見を自由に出し合ってもらい、そのアイデアを、今後の公共施設の再編整備の参考にしたいと考えています。

▶ 各地域デザイン懇談会

各地域デザイン懇談会の開催状況など詳細については、以下をご覧ください。

- [城崎・港地域デザイン懇談会](#)
- [竹野地域デザイン懇談会](#)
- [日高地域デザイン懇談会](#)
- [出石地域デザイン懇談会](#)
- [伯東地域デザイン懇談会](#)

### (3) 豊岡市地域デザイン懇談会の開催結果

4月17日、豊岡市民プラザで、公共施設の現状と課題を共有し「豊岡市の未来に最適な公共施設のあり方とは何か」を考える懇談会を開催



懇談会の内容の一部を、動画配信中

前橋工科大学 堤准教授  
基調講演



鼎談「公共施設の今後の展望について」

【登壇者】

前橋工科大学工学部建築学科

堤 洋樹 准教授

福知山公立大学地域経営学部

杉岡秀紀 准教授

豊岡市 前野 副市長

【ファシリテーター】

(株)八州 井原友建 氏



◎ 公共施設は、公共サービスを提供する手段

× ハコモノ施設の維持そのものを目的にしない

～次世代に

負担と責任を先送りしないために～

「あったほうがいい」



「本当に必要なもの（機能）を賢く使う」